Vol. 1 2014

日本福祉大学「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)
持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成

COC ニュースレター

ふくし・マイスター

地域に根ざし、世界を目ざす。ーCenter of Community−

大学開設以降60年以上に亘り、本学は実習、研究、生涯学習、研修事業等、愛知県のみならず全国の各地域に根ざした様々な取組を進めてきました。それら教育・研究の実績をさらに発展的なものとするため、文部科学省平成26年度「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に申請し、本学の事業「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」が採択されました。

COC(Center of Community の略)とは、教育・研究・社会貢献の3つの分野で、地域課題の解決や地域活性化を目ざして大学が全学的に地域を志向した取組を推進し、地域課題の解決に資する人材や情報、ノウハウが集まる、地域コミュニティの中核的存在となることで、これを目ざす大学を文部科学省が支援するというものです。

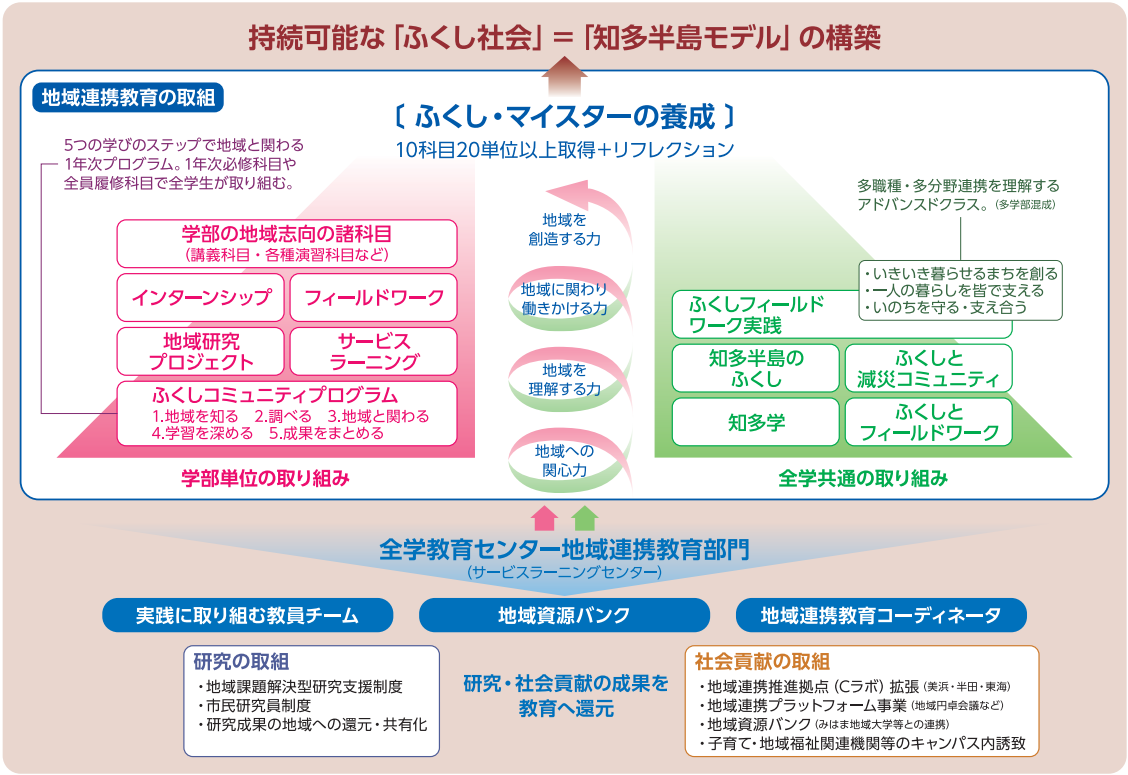
本学のCOC事業では、「ふくし」の視点を持って地域課題の解決に取り組むことができる人材「ふくし・マイスター」を養成します。

また、キャンパス所在地の自治体(美浜町、半田市、東海市)の地域課題の解決に向けた研究・社会貢献の取組を推進します。

学生は知多半島の多様な地域資源と学びとを結び付ける「地域連携教育」を積み重ねるとともに、研究・社会貢献の様々な地域と協働した取組への参加を通じて地域社会と関わることで、地域の諸課題を理解し、「ふくし社会」を担うための力を身に付けていきます。

ふくしとは?

“ふだんのくらしのしあわせ”を意味します。
従来の制度中心の「社会福祉」の枠を広げて、多領域が関連・連携しあう広い意味の福祉を平仮名で「ふくし」と表現しています。



大学は地域の中へ、地域は大学の中へ ーCOCキックオフ・フォーラムー

本学のCOC事業を広く地域の方に理解してもらい、地域の方々とともに大学の新たな教育・研究・社会貢献の取組を作り上げていく契機として2014年12月13日にキックオフ・フォーラムを開催しました。総勢100名を超える参加者が集い、地域における大学の役割への期待が感じられるとともに、これから本学が進めようとしているビジョンを共有しました。

当日はCOC事業の紹介に続き、地域での学生の学びに関わってこられた方々のトークセッションを行いました。

地域と共に育てる「ふくし・マイスター」

Education

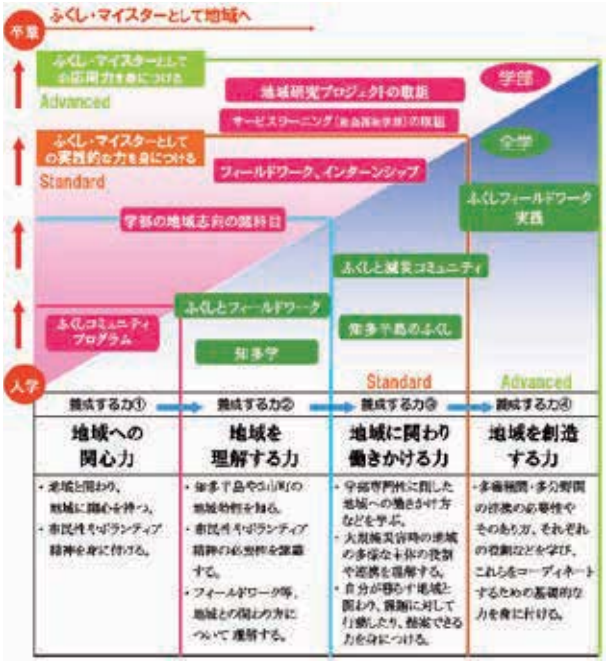
ふくし・マイスター

地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して地域課題の解決に取り組むことができる人材

持続可能な「ふくし社会」を創る
ふくし・マイスター

これからの福祉の仕事や地域社会で求められるのは、専門知識と技能だけでなく、多様な地域資源と連携できる市民力や複雑化、複合化、潜在化する福祉課題を発見して、率先して解決する力です。地域に暮らす一人の市民としても、地域社会の「ふくし」を持続可能なものにするためには、暮らしや地域課題に自ら参加して解決する力が必要とされます。

そこで、基礎ゼミなどの全学部の1年次科目に、地域と関わる「ふくしコミュニティプログラム」を組み込み実施します。また、全学教育センターに地域志向科目を新設し、1・2年次に地域に係る基礎的知識、3年次に多職種・多領域連携に係る実践的な学びを提供するとともに、各学部でも地域志向科目を指定し、それぞれの専門性に対応した地域連携教育を進めます。これら地域志向科目を10科目20単位以上取得し、学びの振り返り（リフレクション）ができた学生に「ふくし・マイスター」の修了証を授与します。



岐阜大学で行われたCOC事業採択校による「地域志向プロジェクト」活動報告会（2015年3月5日開催）において、本学を代表して地域研究プロジェクトの1つであるVCプロジェクトの村上康介さん、渡邉美咲さん、森下直輝さんがこれまでの学習の取組を発表しました。

東海市市民交流プラザまつり（2015年3月14日開催）で、認知症買い物支援プロジェクトを進める原田崇太郎さん、釣澤吏乃さん、指導する斉藤雅茂准教授と、特定非営利活動法人Heart to Heartの尾ノ内直美さんが、認知症学習アプリや、吹き矢ゲームを使って、認知症の方への理解を促す啓発・広報活動を行いました。

Collaboration

自治体との協働

COC事業では、本学がキャンパスを構える自治体（美浜町、半田市、東海市）と連携・協働して、その地域の課題解決に向けた取組を推進していきます。連携関係の強化と地域の声を受け止める体制として、3市町の首長および本学学長をメンバーとする「日本福祉大学COC協議会」を2014年12月に立ち上げました。

美浜町

少子高齢化進行に伴う
子育て支援や地域福祉の充実
防災・減災のしくみづくり

2015年度から開始する地域課題別の協議体制構築のためのワーキングを開催

半田市

中心市街地の地域活性化
地域包括ケアシステムの構築

2015年1月16日に「半田市と学校法人日本福祉大学との連携に関する包括協定」を締結

東海市

中心市街地の活性化
多様な地域づくりの課題に
応える地域デザインの構築

2015年2月20日に「東海市と学校法人日本福祉大学との包括連携に関する協定」を締結

CSVフォーラム [知多半島総合研究所]

Research

キリン株式会社　脇坂 光氏

知多半島総合研究所長　福岡　猛志氏

知多半島総合研究所(1988年設立)は、知多半島の歴史・文化・産業などを調査・研究し、その地域の特色や発展の経過を明らかにしています。知多半島総合研究所地域・産業部が、知多半島の共通価値の創造(Creating Shared Value)をテーマにした「CSVフォーラム」を、2014年12月12日に開催しました。

CSV(Creating Shared Value)とは、共通価値の創造のことで、企業の利益を生み出す事業活動が地域の問題を改善して社会価値を高めることに着目し、企業と社会が互いの共有価値で結びついているという考え方です。

キリン株式会社CSV本部の脇坂光氏による基調講演では、同社での事例をもとにCSVへの理解を深め、続くパネルディスカッションでは「企業が取り組む地域貢献とCSV」をテーマに、パネラーからそれぞれ所属する企業の地域貢献の実践報告が行われました。参加者からは、企業からの地域課題に対するアプローチの仕方が参考になったとの声がありました。このフォーラムを通して、参加した学生、地域の方々、企業も、協働の場をつくっていくことの大切さを改めて考える契機となりました。

地域にある共通価値の再発見と創出
～企業と地域を結び付けるCSV

きょうゆうサロン [東海市]

Partnership

学生が地域で学ぶフィールドをいかに展開できるかを語り合い、「きょうゆう」する機会として、2015年3月6日に「地域と連携した教育を考える」と題した「きょうゆうサロン・バスツアー」を開催し、2015年4月に開設する東海キャンパスの周辺環境を見学しました。愛知製鋼株式会社「鍛造技術の館」の見学の他、「とまと記念館」(東海市の委託運営レストラン)では市民の健康づくりを通した多職種連携の取組を、カゴメ株式会社上野工場内の「カゴメ記念館」では東海市との「トマトde健康まちづくり協定」に基づく健康づくりと地域活性化の取組について紹介いただきました。ツアーのしめくくりには見学の振り返りとして、東海市の魅力と、その魅力を活かして今後取り組みたいことについてディスカッションを行いました。

今回の見学で学んだことを地域連携教育や地域協働の取組推進に活かしていくとともに、今後も地域特性を知り、大学と地域が相互に学び合える場の創出を目ざしていきます。

カゴメ株式会社上野工場 倉田 宏氏

ツール・ド・知多半島
地域と連携した
教育を考える。

鍛造技術の館　館長 廣瀬明次氏

東海市市民福祉部健康推進課長 後藤文枝氏

市民研究員

住民視点から具体的な地域課題を明らかにし、その解決の道筋を探求する調査や活動に対して支援を行う制度として「市民研究員制度」を創設しました。大学研究者と異なる角度で、美浜町、半田市、東海市の地域課題に地域住民自らが迫り、調査や活動およびその成果の社会還元をとおして、よりよいまちづくり（ふくし社会の構築）に寄与することを目的としています。

公募・審査の結果、2015年度の市民研究員として4件採択し、3月7日に委嘱式を行いました。これから1年間、知多半島をフィールドに様々な調査・活動が展開されます。

（左から）鈴木雅貴さん、金森大席さん、大嵜暁美さん、森洋司さん、千頭地域連携推進機構長

市民との協働 ー地域円卓会議ー

地域の課題を持ち寄り、持ち帰る場として、地域円卓会議を開催しています。毎回、様々なテーマを設け、世代を超えた意見・情報交換を行うことで、多様な立場の方と出会い、ネットワークが構築できるだけでなく、新たな取組が生まれています。

半田市「知多半田駅前地域円卓会議」

2ヶ月に一度開催。これまで本学の学生や教員がファシリテーターを務め、参加者の地域での取組を紹介したり、夢を引き出したりして、まちづくりの活動を皆で応援しようという気運が高まっています。

東海市「東海市地域円卓会議」

12月の回では、本学国際福祉開発学部の学生らがファシリテーターとなり、参加した近隣大学の学生、高校生とともにワークショップを行い、若者目線での“心地よい場所”についてアイデアを出し合いました。

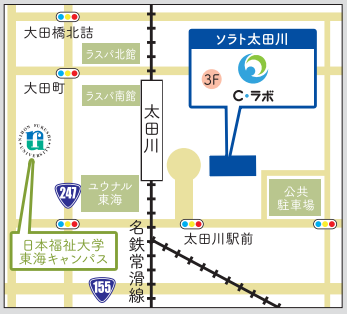
Cラボ

美浜キャンパスの中心には、地域連携推進拠点「Cラボ美浜」（Cラボ：Community Laboratoryの略）があり、地域の子育て支援ボランティア団体による“手作りおもちゃ教室”（出前講座）が開かれたりと、学生や地域の方々が集い交流する場となっています。

このCラボを、2015年度には半田市および東海市の中心市街地に開設します。地域連携コーディネータが学生と地域とを繋いだり、地域と大学との連携に係る相談に対応したり、地域に根ざした活動を展開します。

C・ラボ

Cラボ半田
2015年4月1日OPEN！
名鉄知多半田駅前
「クラシティ半田」3階



Cラボ東海
2015年春OPEN！
名鉄太田川駅前
「ソラト太田川」3階

日本福祉大学 COC事業推進本部
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35番6　教育開発課
TEL　0569-87-2214　FAX　0569-87-2273　http://www.n-fukushi.ac.jp/coc

文部科学省 地（知）の拠点